第20回 旭川大会

第25回 江別大会

第31回 釧路大会

第32回 室蘭大会

北海道造形教育連盟 創立50周年

第33回 留萌大会

第34回 札幌大会

第45回 石狩・千歳大会

第47回 根室大会

第44回 釧路大会

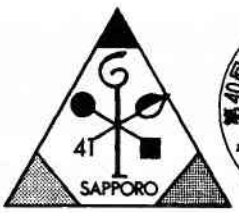
第35回 函館大会

第49回 オホーツク・網走大会

第43回 旭川大会

大会シンボルマークのあゆみ

第42回 函館大会



第41回 札幌大会

第39回 帯広大会

第38回 滝川大会

第37回 紋別大会

北海道造形教育連盟報

No.110 2000.7.10発行

発行 北海道造形教育連盟

委員長 芝木秀昭

事務局 〒004-0845 札幌市清田区清田5条2丁目18-1
札幌市立清田南小学校 藤井正治
☎011-881-1975 FAX011-881-9759

連盟創立50周年によせて

北海道造形教育連盟
委員長　芝　木　秀　昭
（札幌市立幌南小学校）

はじめに

20世紀最後の西暦2000年という年は、北海道造形教育連盟創立50周年という記念すべき年にあたります。

そして、北海道造形教育50年の歩みはそのまま連盟50年の歩みといっても過言ではありません。

この長い年月、幾多の試練を地道な努力で乗り切り、実践研究の花を見事に咲かせてまいりました諸先輩の皆様に深い敬意を表するものであります。

生き方に連なる造形教育

さて、今わが国の教育は大きな改革の渦中にあり、学校教育におきましては子供たちに「ゆとりの中で生きる力」を育むことを基本的なねらいとして、豊かな人間性の育成や個性を生かす教育の充実を目指した教育課程の編成、実施が緊急の課題として挙げられております。

北海道造形教育連盟は、戦後の新しい学校教育制度の発足など、明治の初めに次ぐ、2度目の大きな教育改革が行われているとき、昭和26年11月24日に北海道図画工作連盟として創立され、50年の歴史を積み重ねてまいりました。

第7代の委員長でありました、辻悦平先生が40周年記念誌に、「造形教育のあり方が、人間そのものの生き方に連なることを再確認して、互いに意欲をもやし、心と心を結び合い、裸になって人間としての夢を探究し続けることを願う。」と、述べられておりますように、北海道造形教育連盟はその基本理念を「生き方そのものに関わる教育」として位置づけ、この50年、毎年全道各地で研究大会を開催し、実践研究を続けてまいりました。

したがいまして、「生きる力」の育成が緊急の課題として取り上げられております今日、私ども造形教育に携わる者たちは更に意を強くして実践、及び研究を継続し、深めていかなくてはならないと思います。

このような時に、今年度、全道造形教育研究大会は「豊かな自分作りを生かす想創活動」という「生きる力を育む教育」に直接関わる研究主題のもと、名所・史跡に恵まれたロマン溢れる函館市において開催されますが、誠に意義深く、喜ばしいかぎりであり、心から感謝申し上げたいと思います。

また、北海道造形教育連盟では、来年開催いたします、全国大会のプレ大会を兼ねまして、連盟創立50周年記念公開授業研究大会と文部省教科調査官の板良敷敏氏をお招きしての記念講演会、そしてホテル・ライフォートにおきまして盛大に祝賀会を開催いたします。

全国造形教育研究大会に向けて

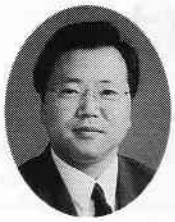
21世紀の最初の年であります2001年9月に、第54回全道造形教育研究大会・北海道大会を開催いたします。現在、札幌市造形教育連盟、札幌市教育研究協議会図工・美術部会、そして北海道造形教育連盟が連携しまして準備を進めているところであります。この大会は、単に札幌市だけで全国大会を行うというものではなく、石狩、根室、留萌、オホーツク、そして函館と続く全道造形教育研究大会の研究成果の集大成、ならびに21世紀における造形教育のあり方を全国に問う大会にいたしたいと考え、努力しているところであります。

最後になりますが、過日4月29日に連盟恒例の地区委員総会が行われました。

その席上、室蘭市のサークルの若い先生から、気持ちを新たにして仲間を増やし、造形教育に取り組みたいという嬉しいお話をいただきました。

今年度、北海道造形教育連盟は創立50周年を迎えましたが、北海道にはまだまだこのように造形教育に対して意欲を燃やす若い先生がおります。

北海道造形教育連盟創立百周年をお祝いする会の開催も夢ではないと確信しているところであります。



【北海道造形教育連盟研究主題】

『心豊かに未来に生きる造形教育』

北海道造形教育連盟
研究部長　櫻　田　　豊
（札幌市立北園小学校）

「手」でものをつくることを見直したい。

「手」でものをつくるというのは、単に手の巧緻性が高まるのではない。「想像力」も鍛えられるのである。これは、「手で考える」ことであり、手で考える「時間」が保障されることである。この時間こそが「心豊かに未来に生きる造形教育」に必要なのである。

「人間そのもののはやさ」で

高度に発達したコンピューターやメディア時代においては、「瞬時なはやさ」がもてはやされるが、人間が自分の力で想像し創り上げる時間は、「人間そのもののはやさ」である。そこに、感動や感性が存在する。足もとの小さな花に目をやる「時間」や「はやさ」は、人間そのものが持つ感性を刺激するのである。これは人間だれもが備えているものである。

だからこそ、「手」でものをつくる＝「手」づくりを大切にしたい。

固有の財産「感性」

感性は、人と人，人とものが共鳴し合って高まり深まっていくのである。感性は人間に与えられた固有の財産である。この感性を捨ててはならない。心の豊かさは人生の豊かさであり、人類すべての幸福である。そして、美しいものにふれ、創り出す営みに心を砕きながら、人間として生きる知恵と「考える手」をもって未来の時間を創造していきたい。

子どもの目を見て語る

感性を豊かにし未来の時間を創造していくためには、子どもと向かい合うこと、本音で語ることが何より大切である。それも、自分の言葉で自分を語ることである。「誰かこう言った」という評論家のような言葉はいらない。子どもの目を見て語るのである。

子どもと「未来」を紡ぎだす

自分の目の前にいる子どもの〈いま〉を摘み取ってしまってはならない。子どもの〈いま〉を摘み取ることは、未来もいっしょに摘み取ってしまうことになる。「未来」は、子どもといっしょに紡ぎ出せばよい。子どもと「未来」を紡ぎだすということは、子どもが対象にかかわり、ものと対話する時間を充分に保障することである。ものと対話し友と語らい、そして、自分と対峙する活動に造形の価値がある。心豊かに生きるには、身の回りにある様々なことに感じ、自分の手でものをつくりだし、そして、自分を開き確かな自分を創り上げることである。

豊かな心と未来を生きる希望と自信を育むために、「手づくり」の造形教育を求めていきたい。

平成12年度　役員・本部事務局紹介

委員長	芝木秀昭（札幌市立幌南小長）	監査	内田暢一（美唄市立中央小長）
副委員長	重山　恵（旭川市立神楽中長）	事務局長	藤井正治（札幌市立清田南小長）
〃	綿面和子（函館市立大森小長）	会計部長	富田　泰（札幌市立八軒北小長）
〃	吉田英夫（江別市立野幌中長）	庶務部長	池田悦子（札幌市立円山小）
〃	出村英和（音更町立東士幌小長）	研究部長	櫻田　豊（札幌市立北園小）
〃	多田紘一（札幌市立もみじ台南中長）	事業部長	田口和男（札幌市立白石小）
監査	阿部賢一（網走市立南小長）	広報部長	中居正光（札幌市立月寒東小）

第50回　全道造形教育連盟研究大会函館大会

~20世紀から21世紀へ~ 心の風景(ビジョン)の発信を！

「豊かな自分づくりを生かす想創活動」

函館大会へのお誘い

大会実行委員長　繪面和子

第50回全道造形教育研究大会函館大会を、渡島、檜山を含む道南の大会として開催できますことに、心よりお礼申し上げます。函館では、8年振りに6回目の開催となるため、会員一同、喜びと共に身の引き締まる思いで準備に取り組んできました。

平成14年度から「新学習指導要領」に基づく新たな美術教育がスタートしますが、移行期にあたる今回の大会は、2000年の節目ということもあり、これまでの「美術教育」から「美術を通しての教育」とは何かを改めて問い直す大事な場でもあります。

造形活動を通して、子供たちが「自分らしさ」を培いながら、美術の基礎的能力を確かに身につけ、日々の生活を心豊かに生きていくという教育を展開したい、その願いのもとに大会テーマ『~20世紀から21世紀へ~心の風景（ビジョン）の発信を！』と研究主題の「豊かな自分づくりを生かす想創活動」を設定しました。

本大会の特色は、幼稚園・小学校・中学校に加え、聾学校、更に複式校の授業を公開することです。これは、子供たちの発達段階はもとより、生活環境や背景などの相違、そして校種の特性を踏まえて、これからの造形教育の在り方を探る初めての試みです。

また、風土を生かした造形活動の創造を目指し、分科会名を「大地からの発信」のように「○○からの発信」とした7つの分科会を設定しました。

これらを通じて、子供たちが住んでいる“地域”での体験を基盤とし、美術の真髄である表現、創造力や美の感受性をいかに培うか、熱い討論が交わされるものと信じています。

大会二日目は、会場を函館市芸術ホールに移しまして北海道立函館美術館長　青野昌勝氏のご講演をいただきます。また、同ホールでは、幼児から高校生までの作品展を開催しております。鑑賞いただきますとともに、次の指導へのご示唆をいただけましたら、うれしく存じます。

函館大会を通して、皆様とともに、21世紀を担う子どもたちの豊かな自分づくりを生かす想創活動を支援できる造形教育を模索できましたら幸いと存じます。

終わりに、本大会へご支援ご助言をいただきました北海道教育委員会、函館市教育委員会ほか、関係機関団体並びに会場校の皆様、そして各地からご参会いただきます皆様に、深く敬意と感謝を申し上げます。

大会シンボルマーク

◆制　作…函館市立潮見中　**仲井靖典**

記念すべき第50回の文字の中央に函館市の形をはめ込み、市街地部分を夢とロマンと希望に満ちた未来を願って虹色に着色した。

5と0の数字は青の美しく広がる巴湾をイメージし0の中に函館のシンボルマークでもある五稜郭史跡を白抜きで表現した。

全体としてシンメトリーな正三角形をベースに、力強く安定した美術教育を目指す私たち会員の熱意を込めた。

大会二日目　講演会

『これからの美術教育を創るために』

~「美術」と「教育」の間にあって考えること~

講　師…北海道立函館美術館長　**青野昌勝氏**

会　場…函館市芸術ホール

美術鑑賞

『エコール・ド・パリ1920』展

解　説…函館美術館学芸課長　**柴勤氏**

会　場…道立函館美術館

これが函館大会の見所だ！

2000年7月26日(水)、27日(木)

◇第１日…函館市立駒場小学校

◇第２日…函館市芸術ホール、道立函館美術館

◇豊かな自分づくりにつながる授業をめざして！

◎多様な校種による公開授業

・幼稚園、小学校、中学校、複式、聾学校による授業

◎函館の思いを託した分科会の構想

・独創的なネーミングで、学年や領域の枠を取り外し総合的なイメージも取り入れた分科会設定

・地域に授業内容、題材と地域とのかかわりを！

◎授業者、研究部員協働での「想創活動」の具現化への取り組み

発信する分科会

A 分科会「大地からの発信」

『ねんどあそびって、おもしろいね』
五感を通して素材にかかわりながら、豊かな想創活動の基盤を育む。幼・小の連携は？

B 分科会「空間からの発信」

『身近な環境とのかかわり、そのよさに気づき、イメージをひろげる』新たな表現を追求していく経験を積み重ねることを大切にしたい

C 分科会「社会への発信」

『美術教育と日常生活、社会とのつながりを大切にした想創活動は？』
自分と他のつながりを認識した表現を！

D 分科会「地域からの発信」

『身の回りや生活環境からひろがるイメージを工夫して表す』一人一人の発見・驚き・感動が十分に受け止められるようにしたい。

E 分科会「科学からの発信」

『自然を愛し地球を愛する心豊かな想創活動』
自然は様々なかたちで私たちの心に訴え、揺さぶっています。

F 分科会「光(地域)からの発信」

『光・空間を意識した構想、制作を通して、驚き感動する自分を発見する』“光”のもつ不思議な魅力を発見させ、居心地のよい空間を！

G 分科会「生き物からの発信」

『自由な背景の中での自分像の表現を楽しむ』
“懐かしい風景”を心に浮かべるとき、何とも言えぬ優しい気持ちになる…。

ほんの少しの営みが、大きなうねりとなって広がっていく。そのような広がりが、21世紀に向け、今大会を契機に全道に広がることを期待しています。それは、造形教育の価値を知り、今後の展開に思いを同じくしている者同士の心のつながりを指すことにもなります。

“想創活動”という新しい切り口は、きっと何かを生み出すはずです。分科会での熱い討論や意見交流をもとに、函館はしっかりと歩み続けて行きたいと考えております。勿論、その基底には子どもへの熱い思いと造形教育に対するビジョンが必要になります。

豊かな想いを私たちもしっかり持ち、夏の函館に集合し、充実した大会をともに創り上げましょう。

【連 絡 先】事務局　函館市立昭和小学校
鈴 木 秀 明 方
〒041-0812
函館市昭和１丁目５番５号
TEL 0138-41-4964
FAX 0138-41-4946

北海道造形教育連盟創立50周年記念事業

記念公開研究会

心豊かに未来に生きる造形教育

研 究 主 題

◇ と き‥‥平成12年9月8日(金)

◇ 会 場‥‥公開授業・分科会　札幌市立幌南小学校

【札幌市中央区南21条西5丁目　☎011-521-0214】

《いま》　《ここ》　《わたし》

今ある自分……、〈ここ〉を起点にして、人ともの、人と人とが共有できる〈いま〉を意識したい。私たちは、単に場所や時間を共有するだけでなく、〈わたし〉と〈わたし〉の〈いま〉を共有し、〈ここ〉で新たな〈わたし〉を見つけだすことに力を注ぎたい。

それは、〈わたし〉と〈わたし〉つまり、人間一人一人が、五感を通して「生」を実感しながら、“自分とは何か”を捜し求めて生きることを大切にしたいからである。そして、「生きる」ことを共有した〈わたし〉たちは、〈ここ〉で共有した〈いま〉を、〈わたし〉自身の中に、確かに記憶し続けるのである。

造形教育の営みも、子どもとともに〈ここ〉でつくり出すことを通して、〈いま〉を共有し、子どもたちも教師も〈わたし〉を見つけだすものにしたい。

北海道造形教育連盟は、50年の歴史の中で、この北海道の地で〈いま〉〈ここ〉を共有し、いつも新たな〈わたし〉を創造してきた。

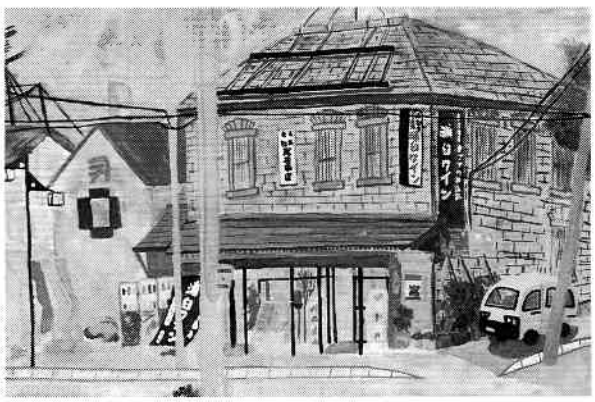
この北海道の大地に鍬を入れ、大いなる文化を創造してきたフロンティア精神に溢れた先達の思いを、私たちの手で再び燃え上がらせたい。文化を築くのは私たちであり、共に未来を紡ぐ子どもたちなのである。

子どもたち、そして私たち教師にとっても、『記憶に残る授業』をつくり出していきたい。

第27回北海道教育美術展

会 期…平成13年1月

第26回　奨 励 賞 作 品



浦臼町立浦臼中学校

1年　戸 澤 麻 美

北海道教育美術展は、全道各地の保育所、幼稚園、小学校、中学校の子ども達の作品を集めた道内最大規模の展覧会です。子どもの想いにあふれ、素直でのびのびとした作品が多く、指導者の熱意とともに全国的に高く評価されています。

今年度も、子どもらしく楽しい作品、豊かな感性にあふれた作品を期待しております。日常の学習の中で取り組まれた作品を多数応募くださいますようお願い致します。

奨励賞作品で研修しませんか？

奨励賞作品は、貸し出しをしています。スライドも用意しています。研修会などにご活用ください。
（貸出料・送料は実費負担です）申し込みは事務局へ！

記念講演会『これからの図画工作・美術教育を考える』

講　師　文部省調査官　板良敷　敏氏

◇ と　き‥‥平成12年9月8日(金) 15時～17時

◇ 会　場‥‥ホテル　ライフォート札幌　【札幌市中央区南10条西1丁目　☎011-521-5211】

◇ 授業研・講演会日程

		8:30 9:00		10:00 10:15		12:15		14:30 15:00		17:00
9/8 (金)	受付	小学校 公開授業	移動	分科会	移動		受付	記念講演会 講師 文部省調査官 板良敷　敏氏		
		中学校 公開授業	移動	分科会	移動					
		9:30		10:20 10:35		12:30				

主　催／北海道造形教育連盟
共　催／札幌市造形教育連盟

北海道造形教育連盟は、本年、輝かしい創立50周年を迎えました。第50回の全道造形教育研究大会函館大会に加え、来年度の全国造形教育研究大会北海道大会のプレ大会ともなります創立50周年記念の公開研究会および講演会を開催いたします。皆様と共に未来に生きる造形教育を検討していきたいと存じます。

どうぞたくさんのご参加をお待ちしております。

記念誌の発行

『虹色の造形』

第1部　・連盟50周年の歩みをふり返る
第2部　・あゆみ（1～50回研究大会の記録）
第3部　・造形ひろば（全道の仲間から）
その他　・連盟名簿、規約 他

【A4判 120ページ（予定）】

◆発　行‥‥9月

ご期待下さい

11日(木)～17日(水)

応募規定

◇絵画、版画、デザイン等の作品とし、学校(園)を窓口として応募する。

◇大きさは4つ切り（4つ切り以下の作品は4つ切り大の台紙に貼る。中学生は8つ切り大の台紙も可）

◇一人1点の出品とする。また、新しい表現の作品についても検討され、次のような基準で半立体作品も取り上げられています。

・積み重ねてもつぶれない、かさばらないこと。
・接着が強固ではがれないこと。
・画鋲で展示が可能な重量であること。

締切…12月18日(月)

主催　北海道造形教育連盟
　　北海道新聞社
後援　北海道教育委員会
協賛　さっぽろ東急百貨店
　　株式会社サクラクレパス

【応　募　先】〒006-0921 札幌市中央区南21条西5丁目
札幌市立幌南小学校
北海道教育美術展 宛

【問い合わせ先】札幌市立創成小学校　稲實　順
TEL 011-241-1756 FAX 011-241-1757

地区サークル紹介

札幌 | 109号 石狩 | 空知 | 留萌 | 後志 | 110号 檜山 | 函館 | 渡島 | 110号 胆振 | 110号 上川 | 108号 旭川 | 室蘭 | 苫小牧 | 十勝 | 帯広 | 108号 釧路 | オホーツク | 108号 根室 | 18 支部

●檜山造形教育研究会

「少数精鋭でも着実な成果」

私どもの檜山造形教育研究会は、檜山管内10町の小・中学校の会員で構成されています。今年度の会員数は22名です。

少数精鋭？のサークルですが、毎年「檜山管内総合教育研究大会」では授業を公開し、実技講習会等も実施してきました。過去にも学習指導要領の改訂期には、檜山管内の図工科基底カリキュラムづくりに取り組むなどの活動をしています。

当研究会が主催する檜山管内児童・生徒美術展も各方面のご理解とご協力をいただき、今年で30回目の開催を迎えます。昨年度は熊石町を会場に開催され、管内各校から405点の応募があり、内容的にも創造豊かな表現と技術の向上が目立ち、年々成果が表れているものと自負しております。今年も瀬棚町で開催いたします。

また、この夏の函館大会は、道南での開催ということで、当研究会としましても微力ながら一員として、提言発表などで協力させてもらっています。

この大会を契機にさらに輪を広げ、充実発展を図っていきたいものと考えています。

〈熊石町立雲石小学校　若竹　隆邦〉

●上川檜山造形教育研究会

「"造形"って何だ？～造形教育の創造を目指して」

4月22日に「結成総会」を開き、管内の小・中学校の会員42名をもって再出発しました。

上川は縦に長く広い地域。各町村の中で、少数の会員は実践・研修・交流の場が少ないという悩みを抱えていました。今回の組織結成は、若い先生方の造形教育への意欲と期待も高く、タイムリーなものでした。

研究部は、「造形って何だ？」の研究主題を設定、①ブロック研究を推進し、②富良野市で研究大会を秋に計画、③作品を持ち寄っての研修会、④講師を招いての「造形教育を語る会」、⑤実践発表大会の開催、…と多彩な研修計画を企画中です。

広報部は、①会員情報を交流し、②研究紀要の取りまとめ、③研究情報の案内、等に取り組みます。

事務局は、夏休みに山で一泊の実技研修と親睦を兼ねた楽しい企画を予定しています。

研究は人と人との絆が大切です。互いの造形に賭ける熱い想いを発信し、連携し、交流を深めることを通して絆を深め、上川の造形教育を支える気概を持って取り組んでいます。

〈美瑛町立宇莫別小学校　及川　輝夫〉

●胆振造形教育研究会　「実践力を高めるために」

胆振造形教育研究会は、東は穂別町から西は豊浦町まで15市町村により形成される、児童生徒の造形教育活動の研修を深め、「実践力を高める指導法」を研究する33名の所帯です。

例年1月11日、12日の両日、登別温泉のホテルで開催される「宿泊研修会及び総会」での基本方針をもとに推進されています。

平成12年度は、室蘭市・苫小牧市で開催される授業実践研修会（10、11月）、各種実技研修会（8月）、人物デッサン・クロッキー会・児童作品交流会（1月）等の取り組みを計画しております。

平成13年度より事務局が変わります。少子化同様、会員も減少し、組織・運営の改革、見直しが今後の胆振造形教育研究会の課題とも考えておりますが、新指導要領に基づき新学力観を生かした図工・美術教育はもちろんのこと、総合的な学習の時間、他領域等との関連を21世紀の造形教育のビジョンとして子どもたちから離れない実践研究を推進していきたいと思います。

〈苫小牧市立泉野小学校　佐藤　輝彦〉

―― あ と が き ――　サークル紹介を読むと、それぞれの地区でたくさん研修が計画され、刺激になります。函館大会も間近となり、また造形の暑い夏がやってきます。会員の皆さんはきっとこの夏も忙しい夏を過ごされることでしょう。明日の子どもたちのための豊かな造形教育を函館大会で確かめましょう。

広報部／小泉　誠，東　尚典，山室ゆかり，太田寿栄子，富田賢司，中山龍男，加藤正幸，土肥宏充，中居正光